お祖師さまを巡る人々 第27回

高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

【三位房日行】は、幼い時からお祖師さま（高祖日蓮大士）のお弟子となりご奉公に励んでいたんだね。頭が良く、弁舌（ものの言い方、話しぶり）も上手で、将来をとても期待されていたんだ。でも、すぐに「自慢したり（自分のことを人の前で良くいう）、「偉そうにする（大きな態度でふるまう・いばる）」という悪いところがあったんだね…。今回は【三位房日行】のお話をするね。

三位房日行

【三位房日行】については余り詳しく分からないんだけど、下総国（千葉県）で生まれ、小さな時からお祖師さまのお弟子としてご奉公に励んでいたんだよ。

【三位房日行】はとても頭が良かったので、お祖師さまから『比叡山（滋賀県）に登って（行って）もっと仏様の教えを学んできなさい』と言われたんだ。

お弟子の中でも「よく勉強ができ」「お話もとても上手」だったんだね。でも、ちょっと残念なことは「自慢したり、偉そうにする」ところがあったんだよ。

【三位房日行】は比叡山で勉強していた時、都（京都）の公家（天皇に仕える人）さんの所に招待され、仏様のお話をいろいろとしたんだね。それが、とても上手だと感心され褒められるんだよ。

そのことを【三位房日行】は凄く自慢するんだね。また言葉づかいも「京都風」になっていったんだ。お祖師さまは『都に心が浮かれていないでシッカリ勉強に励みなさい！』と厳しく注意されたんだ。とにかく自分のことを「よく見せよう」とする悪い所があったんだ。

三位房日行は、とにかく自分のことを「よく見せよう」とする悪い所があった

龍ノ口法難
文永８年（1271）のお祖師さまの最大の法難である「龍ノ口法難」には、自らも首をはねられる覚悟で三位房日行も刑場にお供した

桑ケ谷問答

建治三年（一二七七）、「竜象房」という天台宗の僧が、鎌倉（神奈川県）の桑ケ谷という所で説法（仏教の教えを説き聞かせること）をしていたんだ。

その内容は「念仏、真言、禅宗は正しい教えで、日蓮の教えは間違った教えだ」と言うもので、お祖師さまのご奉公を、邪魔し攻撃するものだったんだね。

そのことを知った【三位房日行】は「竜象房」の所に行き、法論（それぞれの教えについて話し合い意見を戦わせること）をしたんだね。その結果は【三位房日行】の勝利（勝ち）で終わったんだ。これを「桑ケ谷問答」と言うんだよ。

こんな風に、とても頼りになるところもあるんだけど、やっぱり【三位房日行】は「自慢したり、偉そうにする」という悪い性格は直らなかったんだね。

やがて悪い心を起こし、お祖師さまに反抗（さからう・言うことをきかない）するようになったんだよ。そして、お弟子をやめて出て行ってしまうんだ。

その後の【三位房日行】のことは、よく分からないんだけど、故郷の下総国で急に亡くなってしまうんだ。お祖師さまは『不憫（かわいそう）でならない』と、自分の所から離れていった弟子だったけど、その死を悲しんでご回向されたんだね。

お弟子の中でもとても優秀（すぐれている）で、お祖師さまから、将来を期待され教えを受けた【三位房日行】。

でも、そのお祖師さまの弟子を思う心に対して、「恩を仇で返す」（お世話になったのにお返しもしないで、失礼なことを平気でする）ことをしてしまったんだね。私たちも悪い所があったら、すぐに直すように注意しようね。

桑ヶ谷療養所跡（鎌倉市長谷３丁目）
桑ケ谷には良観（極楽寺）が開いた療養所がありその跡に石碑が建っている。このあたりが三位房日行と竜象房の法論（桑ケ谷問答）があった場所といわれている

比叡山延暦寺
比叡山に遊学間もなく、京都の公家に招かれ説法をするとは、三位房がいかに優れていたかを物語っている